

倫理 第23回「近現代日本思想史②：キリスト教／国家主義／社会主義」

○今回のポイント

I. キリスト教の受容

1. キリスト教と日本人

・1873(明治6年)キリシタン禁令が解かれる→キリスト教の受容。プロテスタンティズムが広まる。

(1)[①]…平和の遣い。聖書に感銘を受け、西洋文明とキリスト教で日本に尽くすと決意。同志社を設立し、キリスト教を基本とする自由自活の精神を持った教育を展開した。教会の寡頭政治を批判して、開かれた教会目指して活躍した。

(2)[②]…東京神学社を創立して伝道者の養成にあたり、日本神学界の基礎を築く。教会の自主自立と日本人による伝道を推進。

(3)[③]…教会や聖書にではなく、魂の内なる光を重視するクェーカーの信仰に強く共鳴。「太平洋の橋とならん」とのたまひ、キリスト教と日本文化との融合、日本文化の海外への紹介につとめた。国際連盟事務次長として『武士道』で日本人の精神を世界に紹介した。

2. 二つのJ 心の灯台！[④]

(1)札幌農学校(北海道大学)

鑑三、儒学と武士道の環境で育つ → 札幌農学校 クラーク博士「少年よ、大志を抱け」
→ キリスト教化

(2)[⑤] イエス(Jesus)と日本(Japan)

→「われは日本のため、日本は世界のため、世界はキリストのため、すべては神のため」

(3)[⑥]…教育勅語の奉読式で明治天皇の署名への礼拝を拒否。

→キリスト教は一神教なので、天皇を神とすることは受け入れられない

(4)[⑦]

→「余は日露非開戦論者であるばかりでない、戦争絶対的廃止論者である、戦争は人を殺すことである、そうして人を殺すことは大悪罪である」

(5)日本の伝統とキリスト教の一致…日本の伝統的思想に世界史的な使命を認める

→「武士道の上に接木された基督教に由て救はるる」

(6)[⑧]…教会の教義や儀式にとらわれることなく、聖書のみにもとづく信仰を主張し、独立した個人として神の前に立つことを唱えた。

II. 国家主義の高まりと社会主義

1. 国家意識の高まり…軍隊と教育、資本主義→国民統合 →日本国民としての意識の喚起 Cf. [⑨] (日本人の伝統的な政治意識)

- ・「だれが天下をとってもいいからともかく安心して飯が食えるようにしてくれ」
 - ・客分は国家の運命を心配する必要がない。ひとたび戦争となれば、「我々は客分のことなるゆえ、一命を棄つるは過分なりとて逃げ走る」
- ⇒被治者に国家に対する帰属意識(ナショナル・アイデンティティ)を持たせる。
→オリンピック、ワールドカップ、教育、軍隊、日本史など

(1) 国民国家とナショナリズム

[⑩]	国民之友	平民主義(下からの近代化)から国家至上(国家主義)に転向
西村茂樹	日本道徳論	表面的な西洋崇拜の否定。儒教の国民道徳の基盤化
[⑪]	日本人	国粹主義(日本の国情や伝統の美点を保ちながら改革を行う)
陸羯南	日本	国民主義(日本の一旦亡失せる国民精神を回復し且つ之を發揚し)
井上哲次郎	教育と宗教の衝突	天皇制国家主義からキリスト教を反国家的宗教として排斥
[⑫]	日本改造法案大綱	天皇絶対国家建設。元老財閥政党を除去し、農民と労働者を救う

(2) 天皇崇拝と教育勅語

- ・1889年 大日本帝国憲法 →近代国家の体裁が制度上整う
→ 天皇は「[⑬]」
- ・1890年 [⑭]…伝統的な儒教道徳と市民的な徳目を、皇室中心の立場から統合した内容で構成される。強い国家的統一を指向する国民道徳を説く。

2. 社会主義思想 [⑮]

資本蓄積+労働力の創出+世界市場=資本主義 →労働問題・社会問題の増加

[⑯]…資本主義社会の矛盾や欠陥を是正するために、生産手段の私有制を否定し、生産手段を共同社会の所有に移しかえ、万人の利益のために管理するべきだという主張。

(1) キリスト教系

[⑰]	日本最初の労働組合、議会制にもとづく社会主義、日本共産党結成
安部磯雄	日本フェビアン協会、社会大衆党などを設立
木下尚江	普選運動、廃娼運動、足尾銅山鉍毒事件などに社会運動家として参加

(2) 民権論系

[⑱]	『社会主義真髓』で近代文明批判。土地・資本の公有や普選の実施、軍備派廃止を唱える社会民主党を結成。非戦論・平民新聞・大逆事件
堺利彦	『平民新聞』で幸徳秋水とともに非戦論を展開

(3) マルクス主義系

[⑲]	貧乏の克服に取り組む。人道主義的社会改良からマルクス主義へ。
戸坂潤	唯物論哲学。世界的なファシズムに対し、マルクス主義的国際連帯を説く。